

第4次産業革命に向けたサービス科学の役割とビジネス応用に向けた課題

日 時： 2016年5月31日（火）13時00分～17時30分
 会 場： 日本大学経済学部7号館講堂（最寄駅 JR 水道橋駅東口）
<http://www.eco.nihon-u.ac.jp/about/maps/>
 主 催： 横幹技術協議会、横幹連合
 参 加 費： 横幹技術協議会会員企業の関係者、横幹連合会員学会の正会員、学生は参加無料、
 その他 2,000 円（資料代含む）。当日資料代：1,000 円（希望者のみ）
 参加申込：【事前登録】オンライン申込（<http://www.trafst.jp/>）

【企画趣旨】

第4次産業革命により、つながりを持った価値共（協）創型の社会が創造される。本フォーラムでは、情報化の波がもたらす第4の産業革命の意味すること、そして実現のために求められるパラダイム転換の方向について、サービス科学の視点「包括性（ホロニック）、デザイン思考、学際・業際・国際のインター、創発、決定論的世界観から進化論的世界観、生命論・複雑性」というキーワードから問題提起をおこない、「IoT の現状と将来展望」を包括した上で、わが国のリーディング・カンパニーにおける推進状況を紹介する。

パネルディスカッションでは、わが国の製造業は、何のために、何に取り組み、何に戸惑い、何に困っているのか。ドイツ、アメリカはいま何をしているのか。わが国の産・学・官、各々における役割と課題について検討する。

【プログラム】

		(敬称略) 総司会: 藤井 享(㈱日立製作所・横幹連合産学連携副委員長)
13:00-13:10	開会あいさつ	桑原 洋 (横幹技術協議会 会長)
13:10-14:00 (50分)	◆ 講演1 「サービス科学の視点から見た高度技術社会の未来」	鴨志田 晃 (横浜市立大学 教授 新日鉄住金ソリューションズ(株) 取締役)
14:00-14:50 (50分)	◆ 講演2 「業務を支えるITからヒトを支えるITへ -AR・ウェアラブル技術の活用-」	井上 和佳 (新日鉄住金ソリューションズ(株) 専門部長)
14:50-15:10	休憩	
15:10-16:00 (50分)	◆ 講演3 「人・組織・社会の情報学・経営学・死生学」	阪井 和男 (明治大学 教授 明治大学サービス創新研究所 所長)
16:00-16:50 (50分)	◆ 講演4 「IoT x デザイン = あたらしいカタチのイノベーション」	大川 真史 (㈱三菱総合研究所 主任研究員)
16:50-17:20 (30分)	◆ パネルディスカッション	パネラー：講演者の皆様
17:20-17:30	閉会あいさつ	横幹連合 会長

【 講 演 要 旨 】

(敬称略)

<p>講演1</p>	<p>サービス科学の視点から見た高度技術社会の未来</p>
	<p>◆ 鴨志田 晃 (横浜市立大学学術院教授・新日鉄住金ソリューションズ(株)取締役)</p> <p>1990年代に普及が始まったインターネットは、90年代半ばから世界的に爆発的發展普及を遂げ、今日我が国をはじめ世界で何十億人という人々はその情報化の波の恩恵に浴している。インターネットに代表される情報革命の波は、すべての世界を情報ネットワークでつなげる第4次産業革命の実現を促している。第4次産業革命で実現される高度技術社会は、供給者としての産業界だけでなく、それを利用する人々、関係する組織、これを取り巻く政治や経済と密接な関係を保ちながら「高度な技術社会システム」として発展することが必要である。本講演では、情報化の波がもたらす第4の産業革命の意味すること、そして実現のために求められるパラダイム転換の方向についてサービス科学の視点から問題提起を行う。</p>
<p>講演2</p>	<p>業務を支える IT からヒトを支える IT へ -AR・ウェアラブル技術の活用-</p>
	<p>◆ 井上和佳 (新日鉄住金ソリューションズ(株)企画部 IoX 事業推進センター専門部長)</p> <p>モノとモノが繋がる IoT の伸展により、工場を中心とした現場の高度化、効率性の向上が期待されていますが、従来から改善による現場の効率性を突き詰めてきた我が国では、ヒトとヒトとを繋げる IoH (Internet of Human) の実現による企業全体としての生産性の向上も重要なテーマとなっています。一方で、少子高齢化の進展による労働力不足、グローバル化による品質トラブルのインパクト増大等、日本の現場が克服していかなければならない課題も山積しています。これらの課題を IT を用いて如何に解決していくのか、実証実験を通じた課題解決の方向性や、IoH を実現する IT 技術に関してお話しします。</p>
<p>講演3</p>	<p>人・組織・社会の情報学・経営学・死生学</p>
	<p>◆ 阪井和男 (明治大学法学部教授・明治大学サービス創新研究所所長)</p> <p>現世人類とネアンデルタール人との決定的な違い、それは創造性である。我々の創造への欲求は「よりよき生」を求める実存的欲求のひとつをなしている。この創造への欲求が個人・組織・社会のどんなところにどう現れるかを我々の研究から紹介する。今回取り上げるのは、人と人との対話を通して問題を解決するプロセス、グループによる創造的なワークショップを作る方法、零細・中小企業における創造的な目標達成プロセス、大企業における新規事業の創造プロセスなどである。これらの研究から浮かび上がってくる創造性とは、個人のスキルや能力というよりもむしろ、我々を取り巻く人や環境との「共創的な場」によって誘発される「アブダクションの連鎖プロセス」と、その結果もたらされる「意味の発見プロセス」として捉えることができる。</p>
<p>講演4</p>	<p>IoT x デザイン = あたらしいカタチのイノベーション</p>
	<p>◆ 大川真史 (株)三菱総合研究所企業・経営部門統括室事業推進グループ主任研究員)</p> <p>「つながってやりとりする」第4次産業革命後の世界では、つながりを起点とした価値共創が興ります。多くの日本企業は、目の前に新しい事業機会が転がっているにも関わらず、これまでの世界に留まろうとしています。しかし、ごく少数の日本企業や他の先進国では、このあたらしいカタチのイノベーションを受け入れようと試行錯誤をはじめました。本講演では、エンタープライズ IoT の事例を通じて、以下の内容をお話しします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の製造業は、何のために、何に取り組み、何に戸惑い、何に困っているか。 ・ドイツ、アメリカはいま何をしているのか。 ・日本の産官学に出来る事は本当にあるのか。
<p>パネルディスカッション</p>	<p>第4次産業革命に向けた産・学・官、各々における役割と課題とは</p>
	<p>パネラー： 鴨志田晃 (モデレーター)、井上和佳、阪井和男、大川真史</p>